

いちあまこうに「人・ものづくり」の魂を！

尼崎市立尼崎工業高等学校

「人・ものづくり」開発研究委員会

1. はじめに

「創造・努力・自律」を校訓に、工業と文化の街尼崎市のほぼ中央に位置し、校歌にも「われら勤労学徒なり いざ学べ」とあるように、就業率が下がったとはいえ、本校は働きながら学ぶ高校である。社会人としての自覚を持ち、自主性、創造性および勤労性の資質をもった人材育成をめざしている。

2. 本校の概要

昭和26年4月に本校の前身である学校法人住友工業高等学校の定時制課程が開校した。その後、尼崎市立尼崎商業高等学校と住友工業高等学校が合併し、尼崎市立尼崎産業高等学校として発足した。そして、昭和47年4月に尼崎市立尼崎工業高等学校として定時制課程（機械科・電気科）が独立した。市^{いちあまこう}尼工として既に2,083名の卒業生を世に送り出している。実習棟、体育館、特別教室棟、食堂等の施設・設備は、市立尼崎産業高校との共用だが、HR教室等の専用校舎は別にある。生徒は平成20年度169名でスタートした。そのうち女子生徒が19名である。

3. 本校の特色ある教育活動

本校は教職員が意思の疎通を図り、生徒との心のふれあいを通じて学習指導、生徒指導、進路指導等を実践している。重点目標の一つに、キャリア教育、職業教育の充実を掲げ、工業高校の特徴を生かし、ものづくりを通じた特色ある教育活動を行っている。平成18年度より兵庫

県教育委員会教職員研究グループ支援事業及び尼崎市教育委員会指導力向上事業等の支援を受け、校内組織「人・ものづくり」開発研究委員会を立ち上げた。研究テーマは『キャリア教育をめざした、産学協同による「人・ものづくり」教育プログラムの開発・実施』とし、具体的には「ものづくり」、「インターンシップ」、「ボランティア活動」の3つの取り組みを柱にキャリア教育の充実をめざした。

(1) 具体的な実施内容

①ものづくり

ア 「姫路菓子博2008全国菓子大博覧会・兵庫」のマスコット「ひめか」のオリジナルマイクロカー「ひめカー」製作プロジェクトを実施。（平成19年度）（写真1）

イ クリスマスシーズンに市内の保育園等を訪問するため、一人乗り電気自動車にトナカイやそりの装飾を施した「サンタ号」の製作プロジ



写真1



写真2



写真3

エクトを実施。(平成20年度)(写真2)

②インターンシップ

ア 兵庫県建設業協会主催の阪神地域建設サマーセミナーを猪名川町立楊津ようしん小学校改築工事現場で実施。(平成19年度)(写真3)

イ 兵庫県建設業協会主催の東部地域建設サマーセミナーを神戸市立青陽中養護学校新築工事現場で実施。(平成20年度)(写真4)



写真4

③ボランティア活動

ア DIY (Do It Yourself: 住まいの改善・補修を自らの手で行うこと)を生かし、地域の公民館の障子と襖の張り替え等、地域貢献活動を実施。(平成19年度)(写真5)

イ DIYを生かし、地域の公民館や養護老人ホームの障子の張り替え等、地域貢献活動を実施。(平成20年度)(写真6)

④その他の活動

ア 平成19年度の活動

○こどもものづくり体験スクール(尼崎市)(写真7)

○産業フェア in あまがさき 2007(尼崎市)

○ふれあいフェスティバル 2007 工業教育フェア(播磨科学公園都市)

○「ひめカー」と「カバカー」が小学校を訪問(高砂市)(写真8)等に出展・参加。



写真5



写真6



写真7



写真8

イ 平成20年度の活動

- 産業フェア in あまがさき 2008 (尼崎市)
- ふれあいフェスティバル 2008 工業教育フェア (淡路市)
- 全国産業教育フェア大阪大会 (大阪市) (写真9) 等に出展・参加。

(2) 本校のキャリア教育の特徴

教員が事前に受け入れ企業等において研修を受けるとともに、打合わせを十分に行い、生徒に対する役割を分担した。そして、生徒と教員と企業のスタッフの三者が一緒になって、「ものづくり」、「インターンシップ」、「ボランティア活動」等を実践した。教員が率先垂範で生徒とともに同じ体験をすることにより両者間で共感や信頼関係が築かれた。

①自動車を利用したものづくり

本校でのものづくりのスタートは、生徒の興味・関心が高い自動車を利用した「ものづくり」



写真9

ができないかと考えていたところ、ちょうどカバヤ食品株式会社の60周年記念事業と一致したのがきっかけで、本校を中心に食品会社や自動車会社、さらに他校の生徒を巻き込んだ一大プロジェクトに発展した。そして、多くの方々の協力で見事に成功し、そのノウハウや体験が後輩に受け継がれ「ひめカー」、「サンタ号」へとつながっていった。

②本校独自のインターンシップ

他校にない本校でのインターンシップはどうあるべきかを模索して考えたのが「教員も生徒と一緒に現場に入ってインターンシップを行う」ということで、業務に関する指導は企業に依頼し、それ以外の指導を教員が担う、教員と企業が「協働」するインターンシップであった。

そして、実施に向けての準備としては、実践校や受け入れ企業からのヒアリングだけでなく、教師だけのインターンシップを地元工務店の協力で行った。そこで受け入れ企業の苦勞や、現場と授業の違いなどが体感でき平成18年度からの本格実施に生かすことができた。

③DIYを生かしたボランティア体験

当初、DIYの精神がものづくりやものを大切にすることに通じていく基本になると考えた。そして、参加生徒と教員が地元のホームセンターのDIYアドバイザーから障子と襖の張り替え技術の講習を受け、実際に公民館や老人ホームの障子や襖の張り替えを行った。公民館の利用者や老人ホームの入所者よりお礼の手紙を受け

取ることにより、自分たちの活動に自信がもて、達成感・成就感を味わうことができた。

④キャリア教育のさらなる充実

キャリア教育とは、異次元のものでも特別な教育でもないということである。教育をより本質に近づける要因をもったものである。従って職員側はそれぞれのもつ教育力をより高め、緊張を強いられるものとなる。しかし、そのことで生徒とともに教員は言葉に代えられない感動を得ることができた。ただ単に、生徒を企業に送り込む程度の所業ではその域に到達はできない。生徒と教員がともに汗して同じ緊張の時空を共有すること、少し前向きな意欲と情熱をもつこと、そしてエネルギーを費やすことができれば容易にこのハードルはクリアできる。

定時制工業高校・市^{いちまごう}尼工のキャリア教育の取り組みは、本校の行く末に一筋の光をもたらすものと考えている。

4. 取り組みの成果と課題

「ものづくり」、「インターンシップ」、「ボランティア活動」等の体験を通じて、生徒にやる気や達成感・成就感が芽生え、学校生活に自信と積極性が出てきた。さらに、生徒の意欲や技術の向上だけでなく教員の意識や技術の向上にもつながった。また、マスコミ（新聞・テレビ・FM放送、教育雑誌等）に数多く取り上げられることにより地域に広く知られるようになり、本校のキャリア教育の実践が高く評価され、次のような表彰を受賞した。

- 文部科学大臣表彰（H18.11.25）
- 兵庫県建築設計事務所協会より「くすのき建築文化賞」（H19.5.23）
- 尼崎市立中央公民館より感謝状（H19.9.10）
- 尼崎ライオンズクラブより「教育奨励賞」（H20.2.7）
- 第25回全国菓子大博覧会・兵庫 実行委員会代表兵庫県知事より感謝状（H20.5.12）
- 尼崎市社会福祉事業団より感謝状（H20.8.27）

一方課題も少なくない。主に活動は夏季休業中に希望者を募って実施しているが、仕事の関係で参加できない生徒や仕事には就いていないが呼びかけても参加しようとならない生徒も数多い。体験すれば大きく考え方が変わるのは予想できるが、なかなか参加しようとならない多様な生徒にどう対応していくかが大きな課題である。

5. おわりに

本校の発足当時とは生徒を取り巻く環境や生徒の意識が大きく変化し、多様な生徒が入学してきている。それに対応すべく始まった「ものづくり」、「インターンシップ」、「ボランティア活動」の3つの取り組みを柱にしたキャリア教育は、まだ始まって3年目であるが、「ものづくりの街・尼崎」の地域の若者の再生を担っている。

この取り組みによって、この尼崎の地からもものづくりをめざす若者が数多く出てくることを夢見ている。生徒とともにものづくりの感動を得ることに魅力を感じて動いてきた教員の熱意は、今後のキャリア教育を推進していく上で大きな力になるものと確信する。

今後さらに生徒と教員が感動と苦労を共有することにより、校訓にある「創造・努力・自律」を喚起させ、この活動を継続し、充実・発展させ、他校にはない本校独自のキャリア教育として生徒一人ひとりの勤労観・職業観を育む特色ある教育として確実に定着させていきたい。

最後に、本校の取り組みを理解し技術指導をしていただいたDIYやものづくりの企業関係者、また地域の人材育成のため受入れていただいた地元工務店や県建設業協会の関係者、さらにはご支援いただいた県教育委員会・市教育委員会等の教育関係者の方々に、心から感謝する。